

# 相談支援つうしん

<第97号>2024年2月29日  
県立湘南支援学校 支援連携グループ  
相談支援班 ~教師編~





今回の相談支援つうしんでは、高等部で取り組んでいる支援や教材教具の紹介をします。

<高等部>今回は、高等部2年生の学級で取り組んでいる支援や教材教具の紹介をします。

## 『三角巾結び』

<生徒の実態> 結ぶ(固結び)という指の動きは概ねできるが、見えない状態(後ろ)で結ぶことが難しい。

<支援の流れ> 結び目が見える状態で結ぶ練習を行う。以下の表の①~④の手順で行いました。

①	②	③	④
			
三角に折る	三角巾に辞書を乗せる	辞書を包むように結ぶ	辞書を抜いて被る

始めた時は、この手順を繰り返し一緒に行いました。夏休み前には、①~④の手順を覚え、一人で三角巾を被ることができるようになりました。クラスでは、この方法を続けていましたが、後期の校内実習の時に辞書がなく、どうするか様子を見てみると、三角巾を三角に折り、自分の頭に当てて後ろで結ぶ姿が見られました。結ぶ練習を繰り返し行っていたことで指の動きが定着し、結び目を見ずに結ぶことができるようになりました。

## 『帰りの会プログラム Mini(個人用)』

<生徒の実態> 朝の会、帰りの会、授業中など教員への注目や頭を上げて前を見るのが難しい。姿勢の課題もあり、座ると下を向いていることが多い。途中、気づくと寝てしまっていることも・・・

<支援の流れ> 年度の初めは、「前を見るよ」「顔を上げて」などの言葉かけをしていましたが、なかなか顔が上がらず、朝の会や帰りの会に参加できているかも分からない状況でした。この状況を受け、全体的見通しの教材として使用している『めくりプログラム』を個人用に作成し、全体の会の進行を聞きながら自分のプログラムをめくるという支援を行いました。



使い始めた時は、①挨拶、②みんなの話などが終わる毎に言葉かけをし、めくることを促していましたが、繰り返し行っていく中で、教員の言葉かけがなくても、会の進行を聞きながらプログラムをめくる姿が見られるようになりました。座って話を聞くだけでなく、会に参加しているという意識がもてるようになってきました。

